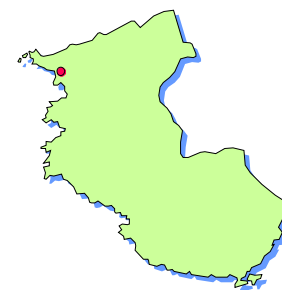


## 2. わかやまみちづくりプラン H15達成度報告/H16業績計画

### (1) わかやま みちづくりプランについて



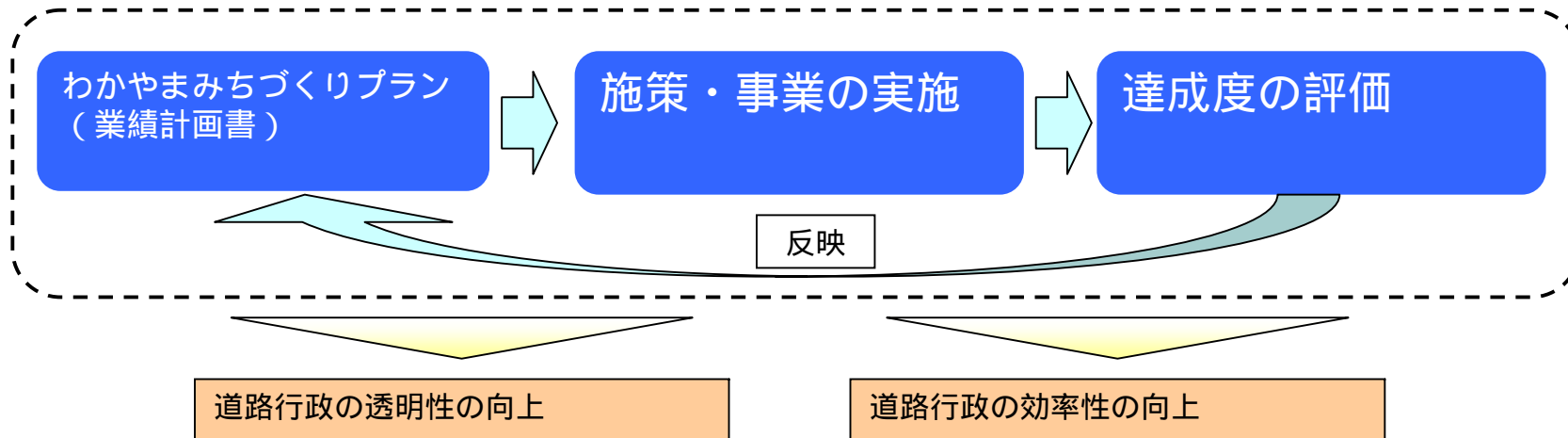
# わかやま みちづくりプランについて

わかやまみちづくりプランとは・・・

従来の整備量を表す計画をあらため、道路整備によってもたらされる成果を重視するという考え方に基づき、道路整備の成果を住民が実感できるわかりやすい指標（アウトカム指標）を用いて策定した計画（業績計画書）です。今後は、事前にアウトカム指標の数値目標を設定し、施策・事業の実施後に評価を行い、以降の施策・事業に反映します。これにより、道路整備の目標や成果を実感できるようにし、道路行政の効率性や透明性の向上を図ります。

H15年度達成度報告 / H16年度業績計画は・・・

H15年度に設定した目標の「達成度」を各指標毎に確認し、その結果を踏まえH16年度の「業績計画」をまとめたものです。



## プラン策定の前提

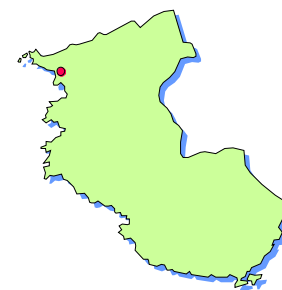
本計画は、道路行政の効率性・透明性の向上を目指す第一歩として新たに策定したものです。現在、県内道路網の整備の進め方等について、詳細な検討を行っているところであり、今後、その結果を踏まえて適宜見直しを行います。

# 政策テーマごとのアウトカム指標一覧

施策テーマ	アウトカム指標一覧	
「開かれた和歌山」 を実現する 道づくり	【指標 - 1】 主要観光地へのアクセス時間	関西国際空港から県内主要観光地（高野山、白浜、那智勝浦）へのアクセス時間
	【指標 - 2】 規格の高い道路利用率	全道路の走行台キ口に占める自動車専用道路の走行台キ口の割合
	【指標 - 3】 県内外の 移動時間	府県間 府県間道路の通行所要時間
県内の交流を 促す道づくり	主要都市間	県内主要都市間の移動距離
	生活圏域内	中山間地域と生活圏域中心都市との移動時間
	【指標 - 4】 道路渋滞による損失時間	渋滞がない場合の所要時間と 実際の所要時間差による損失時間
安全・安心を 守る道づくり	【指標 - 5】 道路交通における死傷事故率	走行1億台キ口あたりの死傷事故件数
	【指標 - 6】 津波にも安心な代替路確保率	地震等により国道42号が被災した場合の代替路の確保率
	【指標 - 7】 三次医療施設人口カバー率	60分で三次医療施設に到着する人口率
豊かな環境を 育む道づくり	【指標 - 8】 主要な旅客施設の周辺道路のバリアフリー化割合	バリアフリー化対象道路のうち、バリアフリー化された道路の割合
「紀州流」の 道づくり	【指標 - 9】 地方基準による道路整備延長割合	年間の道路整備延長のうち、地方基準（1.5車線）による整備の割合

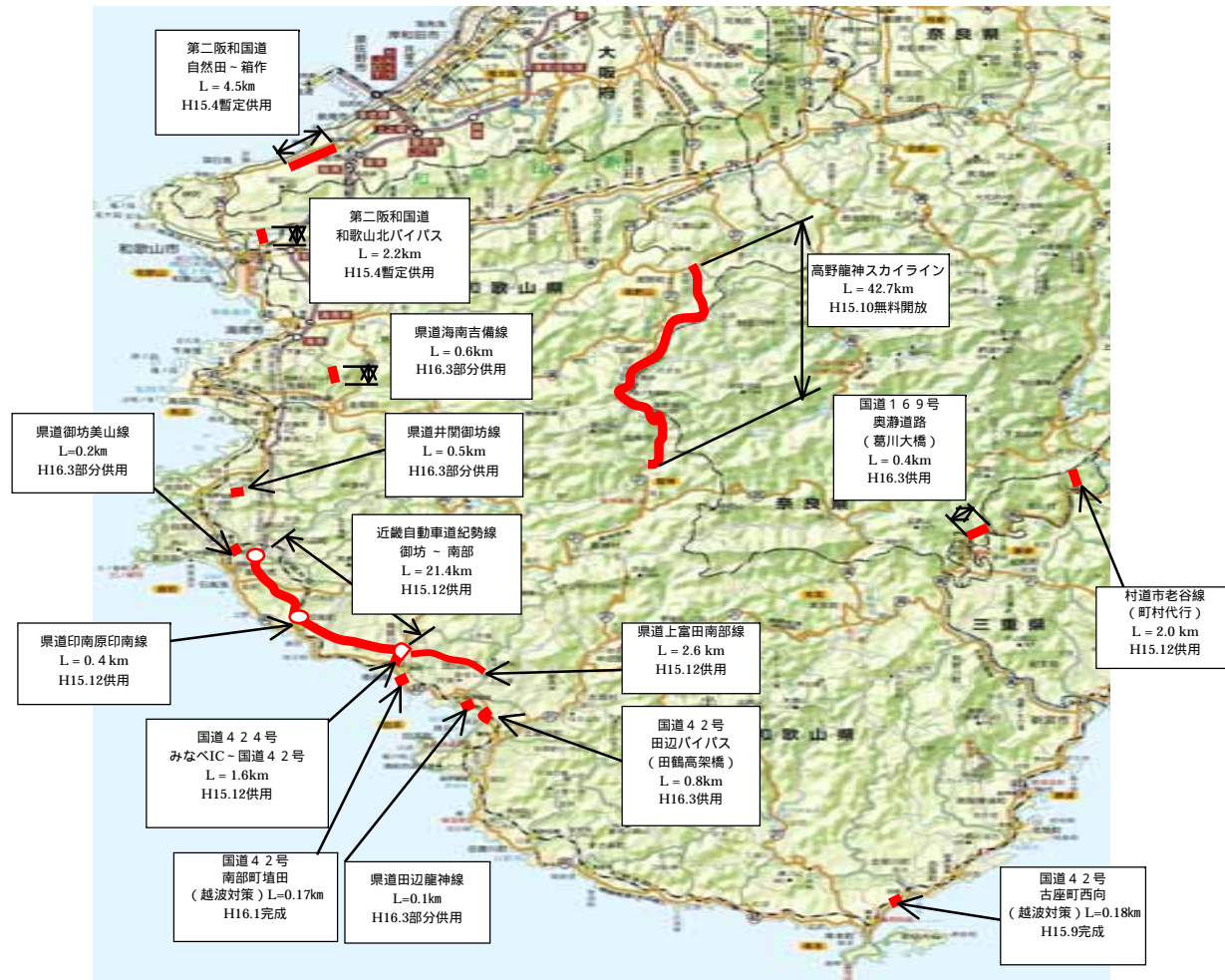
## (2) H15年度の達成度報告

### 開通箇所・各指標の達成度



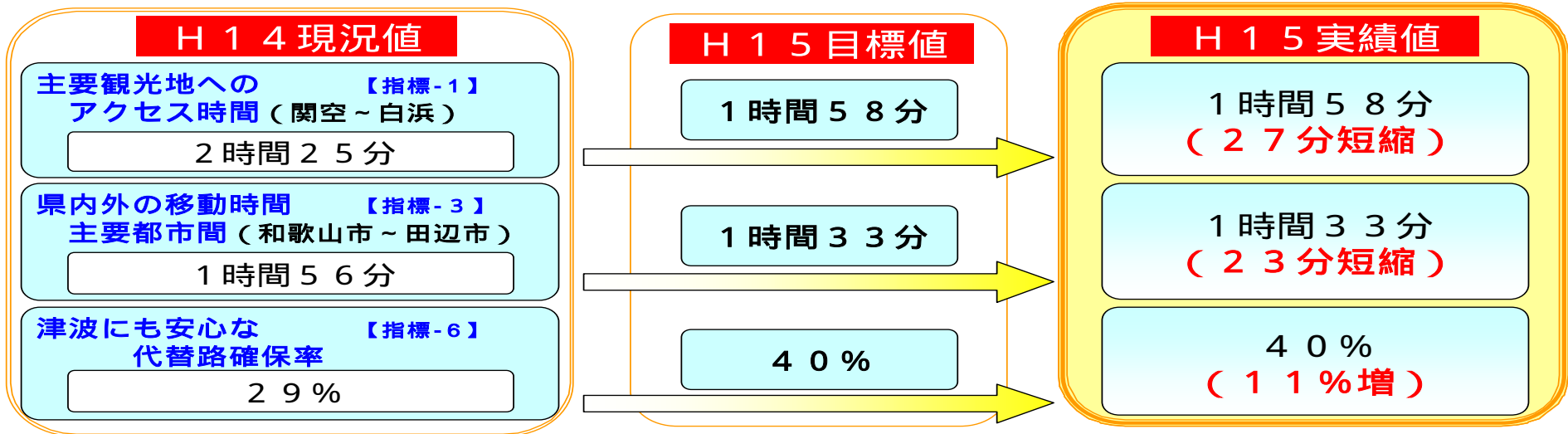
# H15年度の達成度報告（開通箇所 - 位置図）

H15年度の道路整備による主な開通箇所は、近畿自動車道紀勢線(阪和道)の御坊IC～みなべICの開通をはじめ13箇所です。  
開通延長は、高速道路21.4km、国道9.5km、県道等6.4kmの合計37.3kmにのびります。



# 阪和道・御坊IC～みなべIC開通 - 主要業績（1）

近畿自動車道紀勢線（阪和道）御坊IC～みなべIC開通により、**走行時間の短縮**、津波等による災害時の**代替路機能**の確保、広域高速ネットワークによる**第3次医療施設への移動性の向上**などの事業による成果（指標の達成）が図られています。



## 第三次医療施設人口カバー率 【指標-7】

（第三次医療施設へ60分以内で到達できる範囲）

第三次医療施設とは・・・

脳卒中、心筋梗塞等の重篤な患者を24時間体制で受け入れ、高度の医療を提供する救急救命センター等の医療施設。

- \* 県内では、
- ・日赤医療センター
  - ・和歌山県立医科大学付属病院

### H 1 4 現況値



約73万人

### H 1 5 目標値

約75万人



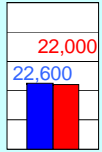
### H 1 5 実績値

約75万人  
（2万人増）

御坊～みなべIC間の開通により拡大

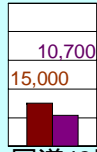
# 阪和道 御坊 I C ~ みなべ I C 開通後の変化

(ゴールデンウィーク)



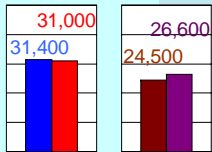
国道42号  
御坊市湯川町丸山

(平日)



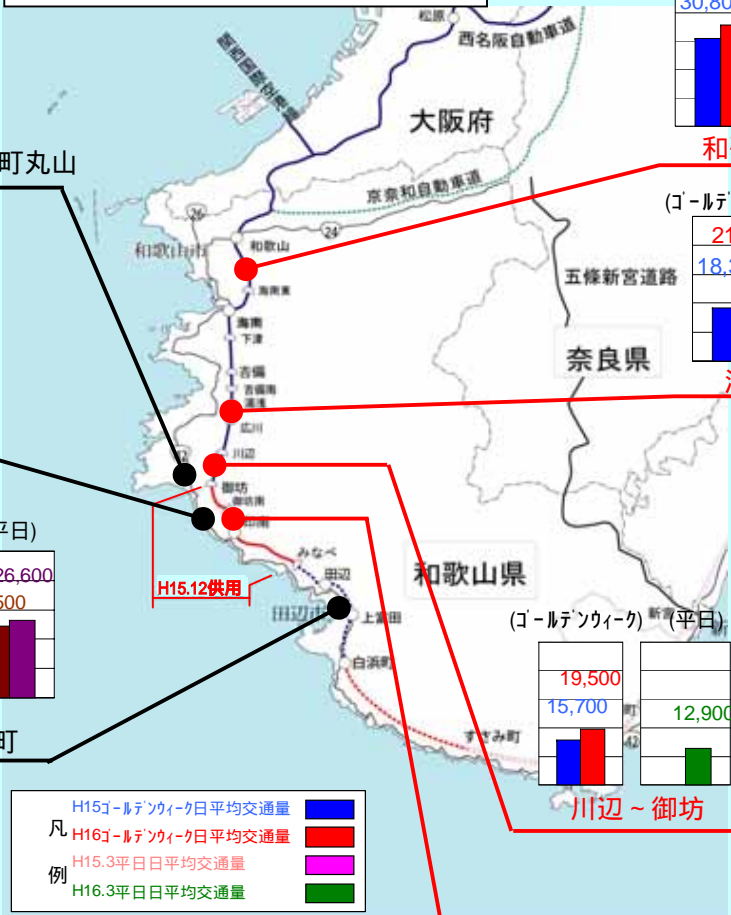
国道42号  
印南町印南

(ゴールデンウィーク) (平日)



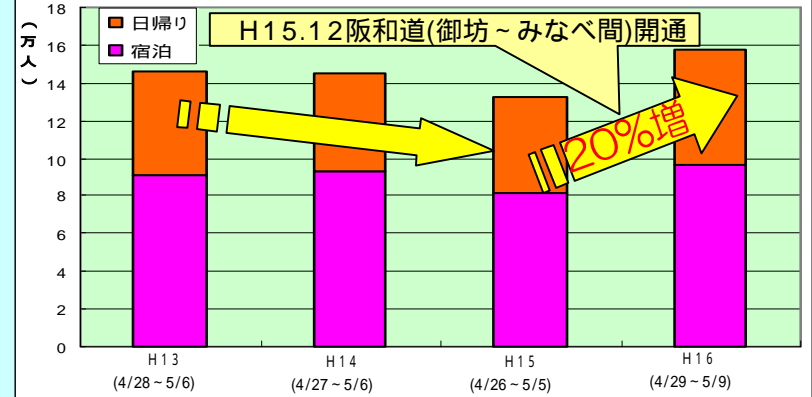
国道42号  
田辺市新庄町

## 開通後の交通状況の変化



H15ゴールデンウィーク日平均交通量 (Blue bar)  
 凡 H16ゴールデンウィーク日平均交通量 (Red bar)  
 例 H15.3平日日平均交通量 (Pink bar)  
 H16.3平日日平均交通量 (Green bar)

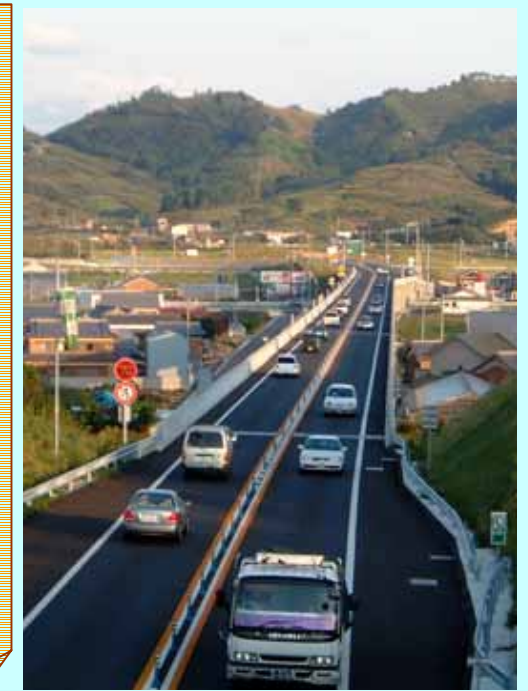
## ゴールデンウィーク観光入込み客数 (白浜)



## 大型連休ほくほく



H16.5.7 紀伊民報



開通した阪和道御坊 I C ~ みなべ I C (南部町内)

# その他 - H15年度の主な指標結果一覧

## H14 現況値

規格の高い道路利用率

[指標 - 2]

5.6%

道路交通における死傷事故率

[指標 - 5]

136件 / 億台キロ

主要な旅客施設の周辺道路  
のバリアフリー化割合

[指標 - 8]

45%

地方基準による道路整備延長割合

[指標 - 9]

7%

## H15 目標値

6.4%

131件 / 億台キロ

47%

13%

## H15 実績値

阪和道・和歌山北BPの開通による利用率の向上

6.4% (0.8%増)

特定の地域において、大幅に悪化

138件 / 億台キロ (2件 / 億台キロ増)

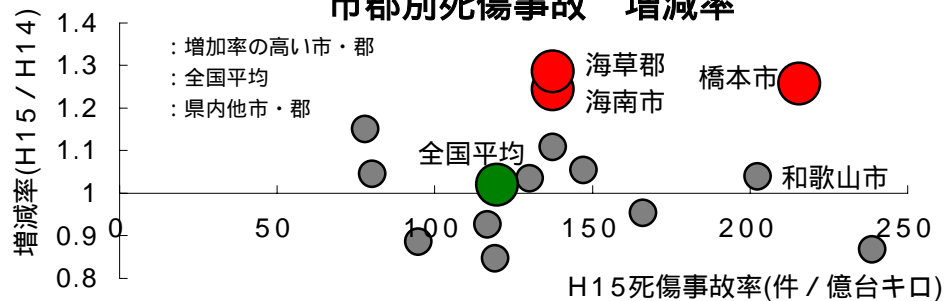
田辺駅周辺、御坊駅周辺で部分供用による向上

47% (2%増)

井関御坊線(広川町上津木)  
海南吉備線(吉備町賢)で部分供用

13% (6%増)

市郡別死傷事故 増減率



死傷事故率(指標 - 5)とは・・・

1キロの区間で、車が1億台走行する時に発生する死傷事故件数



# H15年度のベスト・プラクティス

ベスト・プラクティスとは...

優れた工夫、より良い整備により、従来以上の成果が現れた事例



# 平成15年度ベスト・プラクティス ～「紀の国大橋」の歩道整備効果～

～国土交通省 和歌山河川国道事務所～

## 背景と目的



和歌山北バイパスが開通したことにより、自動車交通の渋滞緩和や紀ノ川両岸の地域連携がなされた。バイパスの機能を十分に発揮し効果が現れている。では、歩行者にとってはどのような効果があったのか？  
 「紀の国大橋」の全歩行者を対象にアンケートを取り、結果を分析してみた。

## 調査概要

調査日時: H16.5.12 (5:00～22:00)  
 調査場所: 紀の国大橋歩道上  
 調査概要: 全歩行者127人/日に聞き取り調査を実施



幅広く安全な歩道 (AM6:00)

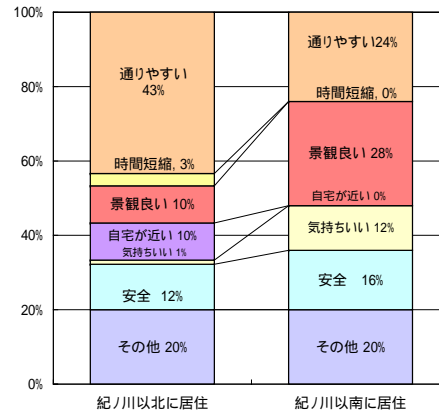


紀の国大橋から見える和歌山城

・紀の国大橋が出来てから散歩を始めた人は約2割

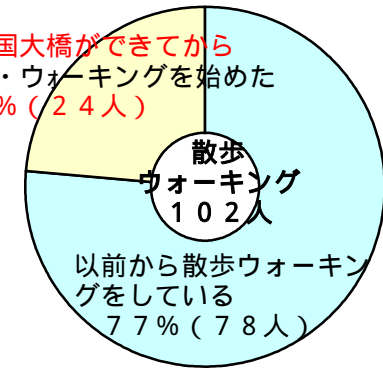
## 調査結果

居住地別 歩行者通行理由  
 (全歩行者127人)



散歩・ウォーキング状況

紀の国大橋ができてから散歩・ウォーキングを始めた  
 23% (24人)



紀の国大橋ができたことによって歩き始めた人が24人(23%)で、その約半数(11人)が60～70代の高齢者。

## 分析・結果

なぜ、歩き始めたのか

(地域別歩く理由からの分析)

紀ノ川より北側の沿線地域は、和歌山北B.Pを除きほとんどが細街路であり、幅広い歩道が整備されていないため、「通やすさ」を求め、紀の国大橋(歩道幅広い(3.0m×両側))を渡っている。

紀ノ川より南側の沿線地域は、和歌山市の中心市街地に近い地域でもあり、商業系施設等周辺に居住されている住民が「景色、景観」を求め、紀の国大橋を渡っている。

(歩き始めた人からの分析)

60代～70代の歩く理由の中では、「通しやすい」「安全である」に11人中8人の方が答えしており、高齢者にとっても『安全で安心して通行できる歩道』であるとともに、「市内及び、紀ノ川が広く見渡せる」、「朝日、夕日がきれいに見える」など歩行者の視点からの『景観的な付加価値要因』も加えられ、地域住民の散歩・ウォーキング活動を向上させている。(高齢者11人のうち、8人が毎日散歩ウォーキングを継続中)



・高齢者にも安全で安心して通行できる幅広い歩道  
 ・美しい風景を創り出す紀の国大橋が人をひきつけた

# 平成15年度ベスト・プラクティス ～国道42号 元町交差点 渋滞解消対策～

～国土交通省 紀南河川国道事務所～

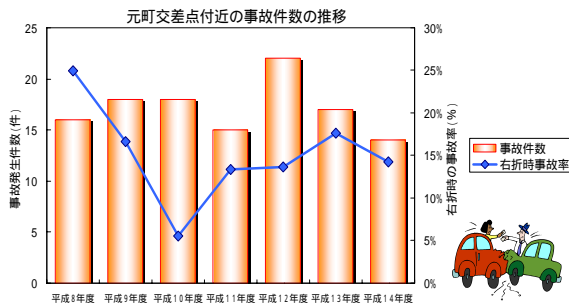
・右折車線延長により通過時間で最大約1分短縮

## (1) 地域の現状・課題

### 元町交差点の位置



年間事故件数17件程度、右折時の事故率15%



## 元町交差点の対策をP型で実施

田辺市内では慢性的な渋滞が発生している。

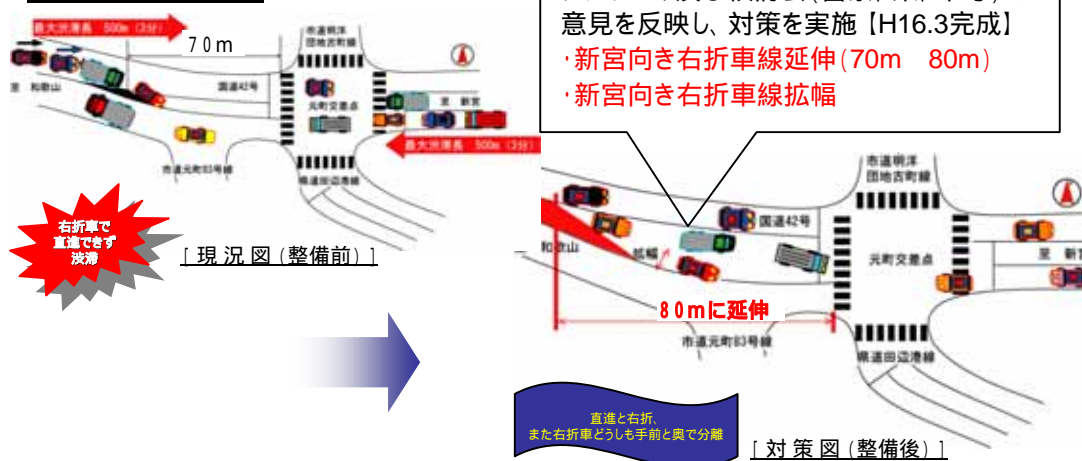
元町交差点では、新宮向き右折車が多く(3割)直進車の通行を妨げている。

沿道利用者アンケートで、元町交差点で渋滞していると感じている人達が最も多い。(約2割)

対策意見として、  
新宮向き右折車線の延伸  
信号サイクル等の見直し 等



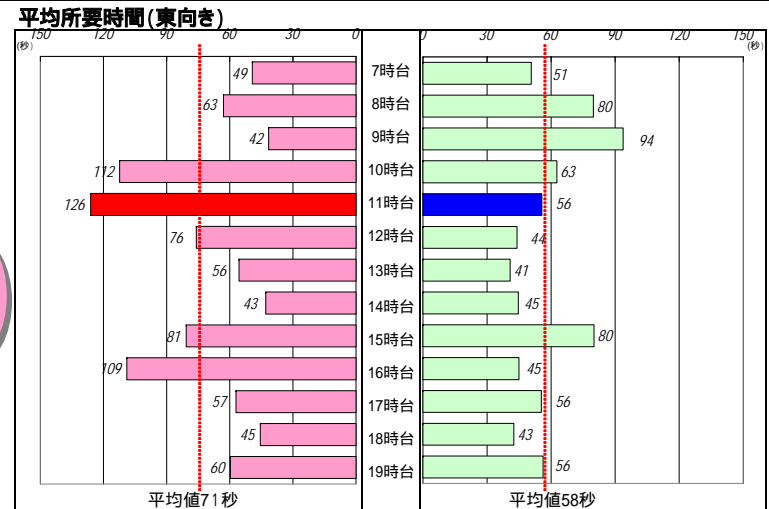
## (2) 施策の概要



## (3) 施策による成果の測定

【実車による走行時間調査結果より】

東(新宮)向き600mの通過時間：最大70秒(11時台)の時間短縮



(整備前)

(整備後)



(右折車と直進車が混在し、渋滞)



(右折車と直進が分離されスムーズに)

対策内容



# 平成15年度ベスト・プラクティス ~高野龍神スカイラインの無料開放~

~和歌山県 県土整備部~

・有料道路の無料開放で、主要観光地への利便性向上

## 概要



- 世界遺産登録地『高野山』と日本三大美人の湯『龍神温泉』を結ぶ延長42.7kmの山岳道路。
- 昭和55年から有料道路として県道路路公社で管理。

利用者の減少  
景気の低迷  
割高な通行料金(片道:普通車2,090円、大型車7,340円)  
(急峻な地形のため建設コストが大)

償還を早め無料開放

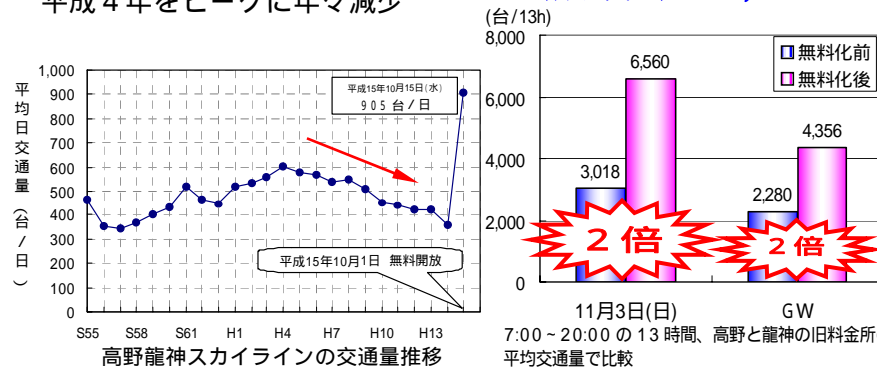
観光地へのアクセス向上により地域活性化を図る

## 交通状況の変化

昭和55年の開通以来、平均日交通量は約300台~600台/日  
平成4年をピークに年々減少

無料開放により交通量は著しく増加!!

・秋の行楽シーズン 3,018 6,560 (台/13h)  
・ゴールデンウィーク 2,280 4,356 (台/13h)



「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録で、より一層の利用が期待される!!

## 沿道施設の利用状況

沿線の観光施設利用者数も大幅に増加!

## 無料開放の状況



- 龍神村龍神の「護摩山スカイタワー」にて開放記念式典を開催。
- 式典後、クラシックカーによりパレードを行い無料開放をPR。



### 沿線の施設利用者数

施設名	無料化後(人/日) 15年10月	無料化前(人/日) 14年10月	伸び率
(高野龍神スカイライン沿線) 野迫川村総合案内所	1,850	680	2.7
山の家「しみず」	3,789	1,933	2.0
ごまさんスカイタワー	10,296	4,033	2.6
護摩壇山森林公園	3,451	1,346	2.6

### その他の施設利用者数

(国道371号沿線) 龍神温泉元湯	23,020	14,375	1.6
(国道311号沿線) 道の駅「熊野古道中辺路」	24,423	12,536	1.9
クアハウス熊野本宮	1,856	1,683	1.1
(国道424号沿線) 道の駅「水の郷日高川龍遊」	3,430	3,036	1.1